

▶ 建築中の法学部・経済学部校舎



期だと考える。
すなわち、それは、卒業後の仕事を
含む人生全般における、さまざまな問
題や生活に対応できる諸能力の基礎を
蓄積する期間である、と思う。経済学
用語を使って比喩的に表現すれば、将
来の生産可能性フロンティアを拡大す
るための、資本の蓄積と技術の研究、

開発の時期だといえる。

ぜひこの時期に、諸君の人生におけ
る生産可能性フロンティアを高めるた
めの基礎力を蓄積していただくことを
期待する。

諸君のこの四年間の健康と飛躍を祈
るしだいである。

(さの・しんさく)

自由と責任

経済学部学生 ◆ 荒川貴志

新入生のみなさん、
ご入学おめでとう。
大学というところ
は、本当に「自由」
なところである。高
等学校までとは違っ
て、授業で出席をとることはほとんどない。
下宿生活を始めたならば門限はないわけ
であるから、好き勝手に遊べる。アルバイ
トに当てる時間が増え、経済的にも少し余
裕ができる。そして、勉強も暗記さえすれ
ば良い状態から、自分が本当に研究したい
ことができるようになるのである。

しかし、その「自由」には「責任」とい
うものが付いてまわる。これまでは、両親、
学校の先生が、身のまわりのことをいろいろ
と世話してくれたが、これからはそうは
問屋がおろさない。自分が採る行動はすべ
て自分自身で責任を持ち、他人に迷惑をか
けたならば、自分自身で解決していかなば
ならない。
「自由」と「責任」を認識することが、
大学生活を始める第一歩であると思うので
ある。

(あらかわ・たかし)



自分自身を見つめよ

理学科長 ◆ 西川恭治

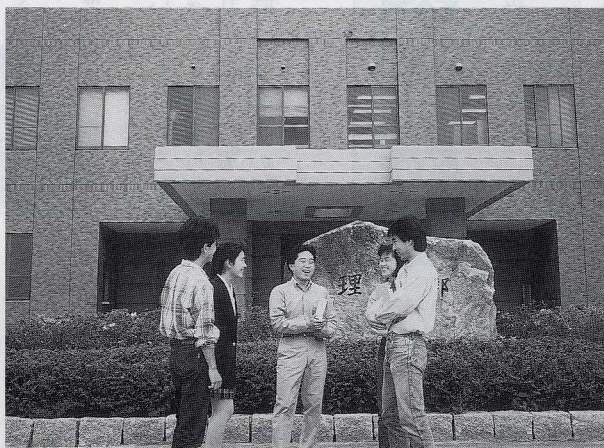


理学部に入學した諸君、入学おめで
とう。厳しい競争を切り抜けて、本日
の栄光を勝ち取った諸君に、心からお
祝いと歓迎の言葉を述べたい。

諸君が、「理学」という学問について
おぼろげながらも分かるようになる
のは、恐らく諸
君が卒業する頃
であろう。

その前に、ま
ず大学について、
少し説明をして
おきたい。大学
というところは、
もちろん学問の
府であるが、諸
君にとつては、
必ずしも直ぐに
はその実感が湧
かないことであ
ろう。むしろ、
高校までのきち
んとレールの敷
かれた教育の場に対して、自由な生活
のできる場という感じが強いと思われ
る。先生方は、諸君にひとつひとつ細
かい指導や注意をしてくだらない。

その代り、ほとんどのことは、諸君
は自分自身の判断で、自分自身の誇り



理学部玄関前で

と責任において行動しなければならな
い。言い替えれば、諸君が必死になっ
て勉強して入学した大学での四年間を、
諸君自身にとって真に有意義なもの
とするためには、諸君自身が自分の興味
は何なのか、どういう生き方をしたい
か、を真剣に考
え、それを求め
て努力すること
が必要なのであ
る。

自由だからこ
そ、時間が十分
あればこそ、自
分の本当にやり
たいことに打ち
込めるのである。
まず自分自身を
見つめ直してみ
ることを勧めた
い。

大学時代にも
う少し考えて努力したならば良かった、
と反省している諸君の先輩が、私自身
も含めて何と大勢いることか。

そのことを良く考えて、今日からの
一日一日を大切に生きてもらいたい。

(にししかわ・きょうじ)